言語と文化　第2号　1989年　（王　　鉄　橋）

現代中国語の敬語表現
—日本語との比較—

王　　鉄　橋

The honorific expression term of modern Chinese
——Compared with Japanese——

Wang Tie-qiao

The honorific expression term is not peculiar to Japanese only, but also exists in Chinese. But the forms of this expression are stressed differently in these two languages. The Chinese honorific expression is mainly shown in presonal expression terms and the roundabout expressions which have greatly increased recently. The honorific expression term of Japanese, however, exists in prefixes, suffixes, vocabulary, grammar etc., and personal expression terms tend to be reduced while the roundabout expressions tend to increase.

That the difference between the honorific expression term of Chinese and that of Japanese has some influence in Chinese and Japanese lauguage teaching should be paid great attention to.

目　　次

1．敬語と敬語表現
2．中国語の敬語表現
3．中日両国語の敬語表現の異同
4．おわりに

1．敬語と敬語表現

中国語の敬語をとらえ、さらに日本語の敬語と比較しようとするには、まず敬語に関する概念を明らかにし、双方を同じ次元に置いて比較しなければならない。さもなければ、両方の共通点と相違点を見い出すことができず、少なくとも正確な比較とはならないのである。そういう理由から、まず本文で取扱う敬語の範囲とその敬語の使用時代をきめておくことにしたい。

敬語については狭義や広義を含めて、いろいろな説がある。狭義の敬語としては尊敬、謙譲、丁寧などを表わすための、敬語としか呼べない要素だけにかぎるという考え方があり、広義の敬語としては、そのほかにさまざまな人の呼び方、依頼、勧誘、質問、応答などの婉曲表現、統語的変化および話題、語句の選択なども含める考え方と、さらにおじぎその他の身ぶり、表情、笑い、服装、作法一般などと敬語との共通性や相互協力の関係もあつかおうとする考え方とがある[1)]。

本稿では狭義の敬語を「敬語」と呼び、広義の敬語の前者を「敬語表現」と呼び、その後者を「敬意表現」と呼ぶことにする。また標題に示したように、本稿では「敬語表現」のレベルで考え、さらに敬語表現を「人称的敬語表現」「選語的敬語表現」「接辞的敬語表現」と「構文的敬語表現」の四つに分類して中国語の敬語表現と日本語の敬語表現との異同を考えることにする。

次に、時代に関しては、現代の敬語表現について考察しようと思うが、その「現代」を定義しておかなければならない。敬語ないし敬語表現は音韻、文法などと異なって、さらに語彙などよりも一段とその時代の社会の影響を受けることが大きいので、時代を明確にせずに論じたものは語学研究、教育と学習に役に立たないものになる恐れがあると思われる。従って本稿では中国語の場合、一応、中華人民共和国ができてから現在までと限定し、

対応する日本語も大体戦後から現在までと限定して考えることにする。

2．中国語の敬語表現

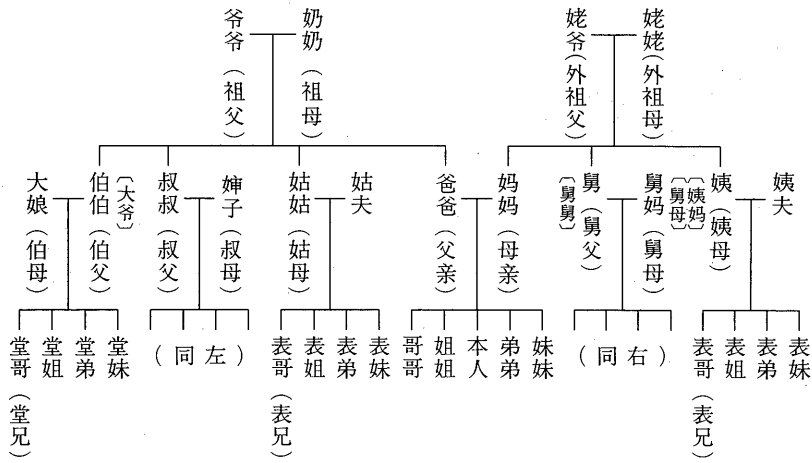
敬語と敬語表現の概念を定義し、時代の期間を設定したあとは、そうした敬語表現として何があるかを考えなければならなくなる。中国語の敬語表現をメインラインにして、人称的（即ち、人の呼び方）、選語的（即ち、語彙的な手段によるタイプ）、接辞的（即ち、接辞的な手段によるタイプ）、構文的（即ち、構文的手段によるタイプ）敬語表現にわけて考えていきたいと思う。

2－1　人の呼称・名称

中国語の敬語表現においては、人の呼び方が大きな比重を占めている。それは人の呼びかたが豊富に存在しているということばかりでなく、世代・身分などの人間関係に応じてきびしい使いわけが要求されているということもあるからである。現代の中国語社会では、同級生、同僚、友人の間では姓名をそのまま呼びすてにするが、家父長制や身分制度など伝統的意識の影響で話者は自分より世代と身分が高い人を呼ぶ場合に工夫をこらさなければならないし、呼ばれる人もそれを非常に気にしているのである。従って敬語表現を考えるにはそれはさけて通れない問題である。つぎに、親族名称、身分名称と人称代名詞を示す。

親族名称

親族の間では、必ずきまった呼びかたを使わなければならない。なかでも話者より上の世代の親族を呼ぶ名称がきびしい。同等世代でも年が上の親族に対する一定の親族名称が一般家庭で要求されているのである。中国の親族名称は共通語に使われているものだけをあげれば次のようになる（図1参照）。



注.（　　）は文章語または第三者に対して言う場合に使われるものを示す。
〔　　〕は話し言葉にそれも使われることを示す。

図１　中国語における親族名称略図

上の世代であるほど、家庭内での地位が高く認められるという考えが一般に持たれている。親族関係にない人にも親族名称を用いて敬意を表わすことが行なわれている。たとえば、同じ村、町の人びとがお互いに〝張大爷〟（張おじさん）とか〝李大嫂〟（李おねえさん）とか呼び合っている。道をたずねる時、〝大爷、往车站怎么走啊？〟（おじさん、駅へはどう行きますか）とか、バスで高齢者に席を譲る時、〝大娘坐这儿吧！〟（おばさん、ここにお座りください）とかいう呼び方をよく耳にする。親族名称を親族以外の人に使う場合、一般に話し手の両親の世代（または自身の世代）とくらべて相手の世代を表現するのが普通である。相手に適当な名称を用いる場合、尊敬あるいは親近を表わすことになるが、用いるべき世代より高いあるいは低い名称を用いることによって相手を高めたり軽蔑したりまたは自分を高めたり卑下したりすることになる。高すぎる親族名称を使えば、相手を恐れたり罵ったりすることもある。たとえば、銃口の下で、殺し手

表1　非親族間に使われる親族名称の対照

日　本	中　　国
おじいさん	老爷爷、爷爷、老公公
おばあさん	老奶奶、奶奶、〔姑奶奶〕
おじさん	叔叔、大爷、大伯、大叔、老伯
おばさん	阿姨、大娘、大婶、大妈
おにいさん	大哥、老大哥、〔老兄〕
おねえさん	大姐、大嫂、嫂子、老大姐〔老姐〕

に〝大爷、饶我一条命吧！〟（おじいさま、命だけは残してください）という力関係による親族名称の例がそれである。また、家庭内ではお母さんは、いたずらをした子供に〝我的小祖宗〟、〝我的小姑奶奶〟（この憎まれっこ）と憎たらしく叱る例もそれである。

中国では適当な親族名称が使える子供は礼儀正しい子だと評価されている。逆によく使えない子は礼儀を知らないとか、しつけが悪いとか悪評がでる。子供が売店へ飴などを買いに行った場合〝阿姨、请给我拿块糖〟（おばさん、飴一つください）と〝阿姨〟と呼べばどんなに忙しくても先にその子供に飴を出してくれる。子供たちもよくその呼称の働きを知っているようである。

この親族名称の非親族への転用は日本にもその習慣があるが、実際に使われている語数が少ない。「おじさん」「おばさん」「おねえさん」「おにいさん」ぐらいであろう（表1参照）。しかも、年齢を基準にすることが多い。若ければ「おねえさん」「おにいさん」と、年をとっていれば「おばさん」「おじさん」と呼んでいるようである。最近、日本では年若く見られたい心理から「おじいさん」「おばあさん」はもとより、「おばさん」「おじさん」とも呼ばれたくないという傾向が見られ、親族名称で呼びかけるより「すみませ

ん」「ちょっと」などで呼びかける方が多いようである。これは中国語の呼びかけ方と傾向が異なる。中国では〝对不起〟（すみません）などで人を呼びかけることはあまり見られない。それより人に声をかける時、呼称に工夫をこらすのが普通である。北京あたりでは〝劳驾〟（ご迷惑をかける)が使われているが、主として道をあけてもらったり何か手伝ってもらったりする時に使われるもので、使用場面と地域が限られていて、「すみません」とは比較できないと思う。

中国語と日本語の親族名称の使いかたの違いもある。例えば、中国では、ある主婦が隣の主婦に対して〝小明他妈〟（明ちゃんのおかあさん）と呼んだりその夫に〝小明他爸〟（明ちゃんのおとうさん）と呼んだりするが、日本ではそのような呼びかけは一般的でなく、「名前＋さん」で呼びかけるのが普通であろう。自分の家族の場合は中国では〝孩子他爸（爹)〟（子供のおとうさん）とか、〝他爸（爹)〟（そのおとうさん）とか呼んだりするが、名前あるいは〝老＋姓〟で呼ぶ家庭は都会に多い。夫の兄弟に〝他叔〟（子供のおじさん）とか、〝他姑姑〟（子供のおばさん）とか呼んだりする。夫の父母には〝爸爸〟（おとうさん）〝妈妈〟（おかあさん）と呼ぶのが普通であるが、〝爷爷〟（おじいさん）〝奶奶〟（おばあさん）をこどもの立場で第三人称として使う人もいる。日本では家庭内では子供を基準として「おかあさん」「おとうさん」「おじさん」「おばさん」「おじいさん」「おばあさん」と呼んでいるようである。

中日両国語の親族名称上の違いによって、翻訳にも時に問題がもたらされる。たとえば、入院中の子供が注射してくれる看護婦に〝护士阿姨、給我打轻点好吗？〟（看護婦さん、注射の時、軽く押してくださいね）とよく言う言葉で、日本語訳の「看護婦さん」は、その願いを言う時の子供の気持と甘えを充分に表わすことが難しい。「看護婦おばさん」と直訳したら日本語の習慣からはずれてしまうはめになる。

また、魯迅の作品『祝福』の女主人公は「祥林嫂」とそのまま訳すより仕方がないようであるが、どうも日本人に理解しやすい呼び方ではないようである。なぜなら、それは中国語の親族名称の特殊な使い方だからである。中国語には親族名称の形で特定な人に固定した愛称（通称）として呼びなれている現象が多く見られる。たとえば、〝尤二姐〟（尤の二番目のおねえさん）、〝杜大叔〟（杜のおじさん）、〝吴妈〟（吴のおばさん）などのような、知っている人なら誰にでも呼ばれる親族名称のまま固定した通称が中国の文学作品によく見られる。

身分名称

社会は各階層の、それぞれ身分がちがう人びとからなっている。それに応じてお互いの呼び方も違う。封建的身分制度が二千年ほどつづいてきた中国ではその階級による身分、身分による呼び方の意識が人々の中に深く根を下しているのである。だから、社会主義の中国でも官僚優位の観念が強く、社会生活の中で敬称と思われる身分名称が昔から現在まで、頻繁に使われているのである。

例えば、幹部である人を〝老王〟（王さん）〝老张同志〟（張同志）と呼んだりすると、その人の機嫌を損ねることになる。本人は、〝○书记〟（書記長）や〝○部长〟（部長・大臣）や〝科长〟（課長）と呼ばれるのを喜んで、それこそ自分を尊敬しているのだと思っているのである。現在、役所、会社、学校、工場などの単位内で身分や職場を表わす名称が広く使われている。まず上下関係にあるものを四種類に分けてあげてみよう。

(1)職名そのままのよびかた

〝主任〟（主任）〝厂长〟、（工場長）、〝处长〟（部長）、〝科长〟（課長）、〝股长〟（係長）、〝組长〟（組長）、〝校长〟（校長・学長）、〝部长〟（部長・大臣）、〝主席〟（主席）、〝总理〟（総理）、〝书记〟（書記長）、〝委员长〟（委

員長)、〝老师〟(先生)、〝大夫〟(お医者さん)、〝师傅〟(お師匠さん)

(2)姓(姓名)＋職名

(3)職名＋同志

ただし、〝老师〟、〝师傅〟には〝同志〟がつけられない。

(4)職業名＋〝叔叔・阿姨〟

〝邮递员叔叔〟(郵便屋さん)、〝护士阿姨〟(看護婦さん)などがある。ただし、〝主任〟〝书记〟〝○长〟および〝老师〟、〝师傅〟には適用しない。

ここで説明しておきたい点が三つある。一つは(2)の「姓＋職名」の場合は中国では下→上の呼びかただけでなく、上→下にも用いられることである。たとえば、工場長が部下の課長に〝李科長〟(李課長)と呼ぶ時もある。つぎは知識層で有名で高齢な学者、専門家、芸術家に対して、〝先生〟あるいは〝姓＋老・先生〟という尊称が使われる。たとえば〝魯迅先生〟〝郭老〟などがそれである。もう一つは日本語の「次長」「補佐」にあたる〝副部长〟〝副科长〟などの職務の人に直接〝部长〟〝科长〟と呼んで敬意を表す傾向がある。

日本語の場合は、日本人の集団意識と上司への忠誠意識、または社会競争と協力の関係によって、また身分意識の影響もあって上下の呼び方はかなりきびしく感じられる。たとえば(1)の身分名称と殆んどそのあとの訳名のまま使われるであろう。(2)も同様に用いられる。(3)は〝同志〟という使い方は行われないが「さん」などをつけて用いられる。また職名の前に姓をかぶせ、後に「さん」などをつけて用いる人もいる。しかし「先生」には「さん」などをつけることはない。「師匠」は「お師匠さん」という形で用いられる。(4)の呼び方は親族名称に入れてもいいもので、日本語に見られないものである。

身分名称で敬意を表現することは、上下関係に限らず、平等関係にもあ

る。たとえば、(1)の例に、〝老师〟〝师傅〟を除いて、〝先生〟をつければ、〝○长先生〟の形で同等的な敬称となるのである。しかし、これは外国人と中国人との間の呼称の感じである。外国人に対して職業を問わず、礼儀と敬意を示す敬称として〝先生〟という呼称が使われている。中国国民の間で用いられているのは〝同志〟と　職業名＋〝同志〟　が一番多い。たとえば、〝司机同志〟（運転手さん）、〝医生同志〟（お医者さん・先生）〝警察同志〟（刑事さん・お巡りさんなど）〝售货员同志〟（店員さん）〝解放军同志〟（解放軍さん）などが一般的に用いられている。〝老师〟（先生）、〝师傅〟（お師匠さん）〝会计〟（経理士）などに姓をかぶせ、先生の間、労働者の間、知っている人の間で平等的な敬称として用いられるし、先生に対し学生の父母も一般の人も敬称として用いられている。全く職業も名前も知らない人に呼びかける時は、〝同志〟だけでいいのであるが、文革後現在、〝师傅〟と〝老师〟の使用範囲は〝同志〟を凌ぐ勢いで急速に広がる傾向が見られる[2)]。

日本語の場合は社会の各職業が平等なので殆んど「さん」をつければいいのである。社内でも同僚の間で「○○さん」という平等的な敬称が使われているが、これは接辞的な表現に入っているので身分名称と異なる。

人称代名詞

現代中国語の人称代名詞は方言、俗称を除いて単数は〝我〟（わたし）、〝你〟（あなた）、〝您〟（あなた）、〝他〟（かれ）、〝她〟（かの女）ぐらいで、複数の場合〝我们〟（わたしたち）、〝你们〟（あなたたち）、〝他们〟（かれら）〝她们〟（彼女たち）ぐらいで、日本語より少ないようである。敬語専門のものは〝您〟だけである。しかし、この〝您〟の活躍ぶりが目立ち、敬語表現の機能が高いと思われる。例えば、「明日、いらっしゃいますか」（明天、您来吗？）「田中先生、お電話です」（田中老师、您的电话）などの日本語

の文に対する訳文は「いらっしゃる」、「お」にあたる敬語要素がないが、〝您〟の存在によって、日本語の文より敬意が少ない感じはない。それと類似する例はいくらでもあげられる。「めしあがってください」（您请吃吧）「お帰りになる時」（您回去的時候）「お父上」（您父亲）「社長、お帽子です」（社长、您的帽子）などがそれである。

つぎに、自分より世代が上で地位の高い人に使われない第三人称〝他〟は語用論的、構文論的な考えから見れば、文脈によってその制約が緩和され、敬語性が加わる現象も観察されている[3]。例えば、〝王老师和他夫人也来看你了〟（王先生とおくさまもお見舞いにいらっしゃいました）、〝張爷爷他前年去世了〟（張おじいさんはおととし亡くなられました）のような文がそれである。文脈や呼称に照応的に用いられる〝他〟は尊敬する人の前でも使えるようになって、全文から見て敬意表現の一部となっているように見えるが、〝他〟そのものが敬語表現となりうるかどうかは、今後の調査と研究を必要とする。

もう一つ言っておくべきことは中国語の第二人称〝你〟〝您〟に〝老〟あるいは〝老人家〟を、第三人称〝他〟に〝老人家〟をつければ最高の敬語となる[4]。例えば、〝爹、您老也来了〟（おとうさん、あなたさまもおいでになって）、〝让您老人家受苦了〟（あなたさまにご苦労をおかけしまして）〝毛主席他老人家也来看我们了〟（毛主席あのお方もお見舞いにいらっしゃった）などがそれである。

他に〝您〟の複数〝您们〟が書き言葉に時に見られるが、話し言葉には北京あたり一部の老人が使う[5]ほか、殆んど見られない。目前の二人または二人以上の人を敬って呼ぶ時、〝您〟に〝二位〟〝两位〟〝二老〟〝夫妇二人〟をつけて用いられるのである。

2－2　選語的な敬語表現

人の呼びかたに関する語を除けば語彙的手段による敬語表現が乏しいことは中国語の実態である。しかし、数は少ないが使用頻度が高く、有効にその機能を発揮していると思われる。

助数詞〝位〟

人間を数える単位として〝位〟と〝个〟が使われる。〝个〟は人間にも動物にも事物にも使える汎用性のある助数詞であるのに対して〝位〟は人間の中でも尊敬すべき人だけに使われる。たとえば〝一个小偷〟（ある泥棒）と言えるが〝一位小偷〟とは言わない。〝一个人〟（ある者）と言うが〝一位人〟とは言わない。〝一位先生〟と言うが、〝一位男人〟とは言いにくい。〝一位太太〟（あるおくさん）というが、〝一位女人〟とは言いにくい。また、文脈によって〝位〟が使える場合と使えない場合がある。例えば、〝那个外国人真討厌〟（あの外人は本当にいやだ）の場合には〝个〟のかわりに〝位〟を入れかえられないが、〝那个外国人真有趣〟（あの外国人は本当に面白い）の場合には〝位〟を入れかえられる。〝刚才讲话的是个老师〟（今お話をした方は先生です）では〝个〟より〝位〟が一層自然に感じられる。

〝位〟はまた〝这〟〝那〟〝哪〟〝哪一〟などに付けて初対面の人の紹介または直接聞く時によく用いられる。例えば〝这位是李老师。〟（この方は李先生です。）、〝那位是王刚同志。〟（その方は王刚さんです）、〝您是哪一位？〟（あなたはどちらさまでしょうか）などがそれである。

〝是〟〝有〟の後に来る例もある。例えば、〝她真是位好姑娘。〟（彼の女は本当にいい娘です）、〝从前、有位仙人住在山上〟（昔、ある仙人さまが山の上にすんでおられました）などがそれである。

付け加えることとして、中国の妻または夫同士の間で〝我家那位…〟（家のあの方は）をもってよく自分の夫あるいは妻をさして言ったりすること

がある。その〝位〟は敬語というより特定の親族の意味を感じさせる。もし〝我家那个…〟（家のあの者は）と言ったら場合によって自分の子供を言うと理解されることもある。これは〝位〟という敬語要素の転用ではないかと思われる。

名詞の選択による敬語表現

①〝老婆〟、〝爱人〟、〝夫人〟

これらはそれぞれ日本語の「女房」「おくさん・ご主人・妻・夫」「夫人」にあたる。〝老婆〟（女房）は親しい友達・同僚の間で使われる、くだけた言いかたである。〝爱人〟は一般同僚、知りあいの間で一番多く使われる、敬語でもないし俗っぽくもない言い方である。〝夫人〟（夫人）は目上の人や国家指導者の妻に対して使われる言い方である。〝爱人〟〝夫人〟の前に〝您〟がかぶせられるが、〝老婆〟の前にはかぶせられない。〝老婆〟が自分の妻を言う場合が多いのに対し、〝夫人〟は人の妻を言う場合である。〝爱人〟は自分の側にも他人側にも言える。

男の立場から言えば日本語には「女房」「おくさん・妻」「夫人」がそれと対応しているが「女房」は自分の妻を言う場合に使われるのに対し、「夫人」は人の妻を敬って言う場合に使われる。〝爱人〟と対応しているのは「おくさん」と「妻」の二語で相手側を言う場合には「おくさん」が使われるが、「妻」は自分側を人に言う場合に使われる。自分にも他人にも使われる〝爱人〟は日本語に相当することばが見あたらないのである。

②〝生日〟、〝寿辰〟、〝诞辰〟

これらは日本語の「誕生日」にあたるものである。〝生日〟は一般に使われるが、〝寿辰〟はとくに尊敬すべき高齢者に対して使う。国家指導者の誕生日を言う時には〝诞辰〟が使われる。日本語より場合に応ずる顧慮があるわけである。

③〝年令〟〝年纪〟〝岁数〟

これらは日本語の「お年」にあたるが日本人の間では年齢を聞かないのが礼儀だという意識によって年に関する表現は抑えられていてその機能が発達していないようである。それに対し、中国語には〝年令〟、〝年纪〟、〝年岁〟、〝岁数〟、〝高寿〟などがある。しかも選択的機能が発達している。〝年令〟は人間にも動物と植物にも使われる無色透明な言葉であり、相手の年齢、身分を問わず事務的に年齢をたずねる場合に使われる。高齢者に対してたずねる場合には〝年纪〟〝年岁〟〝岁数〟〝高寿〟などが使われる。適当な言葉を用いれば高齢者や目上の人に年齢をきくのも失礼とならない。

動詞の選択による敬語表現

日本語には同じ意味で使われ、敬意度の違う動詞、例えば、「食べる→めしあがる」「行く→いらっしゃる」などのような敬語表現が多くあるが、中国語にはあまり多くないがそういう表現も多少見られる。

①〝叫〟と〝请〟

〝请他讲话。〟（かれに話をするようたのむ）と〝叫他讲话。〟（かれに話をさせる）の二文は前者は敬語表現となるが、後者は話者から圧力をかけて無理に話をさせる意味となるから敬語表現ではない。また〝叫医生〟（医者を呼ぶ）より〝请医生〟（医者にきていただく）の方が敬語表現となる。

〝请〟は独立語としての動詞の使い方のほかに助動詞としても広く使われている。それに関しては後にふれることにする。

②〝吃饭〟と〝用饭〟、〝喝茶〟と〝用茶〟

〝请吃点心〟（お菓子をたべてください）の〝吃〟を使わずに〝请用点心〟（お菓子をめしあがってください）の〝用〟を使った方が敬意度が高くなる。同様に〝请喝茶〟より〝请用茶〟の方が敬意度が高い。

③〝会见〟、〝拜见〟、〝接见〟

〝会见〟（会見する）は外交上または他の公式な場合で両国または両方の責任者などが平等に面会することを言い、敬語表現に入らないのに対して、〝拜见〟（お会いする）と〝接见〟（接見する）は敬語に入ると思う。〝拜见〟は主体を低める表現で、〝接见〟は身分の高い人の行為を言う表現である。

④〝请示〟、〝作指示〟

〝请示〟（ご指示をあおぐ）は部下が上司や責任者から指示をいただくことであるのに対し、〝作指示〟（指示を下す）は上から下へ指示を伝える意味となる。それらを使うことによって受け手に大変な敬意が感じられるので敬語表現に入ると思われる。

⑤〝汇报〟、〝报告〟

両語とも日本語の「報告」と訳されているが、中国語の〝汇报〟は部下から上司へ報告をすることから自分の講演や講義を謙遜して言う場合にも使えるようになったのである。〝报告〟は講演者や責任者の立場でその講演を言う場合もあるし、個人が組織や上司に自分の仕事、計画、考えなどを報告することもある。例として〝作汇报〟（ご報告する）、〝作报告〟（報告をする・講演をする）、〝打报告〟（報告書を書く）、〝打小报告〟（告げ口をする）などがある。

⑥〝死〟、〝逝世〟

日本語では「死ぬ」に対する敬語は「なくなる」「なくなられる」「おなくなりになる」や「逝去される」などがあるがその多くは形態的な手段によるものだが、中国語では〝死〟に対する敬語、忌語がかなり多い。いずれも語彙的な表現である。現在、使われているのは〝去故〟（なくなる）、〝去世〟（なくなる）、〝过世〟（なくなられる）、〝逝世〟（逝去される）、〝永别〟（永別する）、〝长眠〟（永眠する）などがある。

⑦〝活〟、〝在世〟、〝健在〟

〝死〟（死ぬ）に対して〝活〟（いきる）がある。〝去世〟（なくなる）に

対して〝在〟〝在世〟（この世に居る・在命される）がある。二つとも自分側にも人の側にも使われるが敬意度が違う。例えば、〝你父亲还在(世)吗？〟（お父さんはまだいらっしゃいますか。）に〝在〟のかわりに〝活着〟（いきている）を使うと失礼なことになる。〝健在〟（健在する）は敬語専用表現として相手側に対し広く用いられている。

2－3　接辞的な手段による敬語表現

これについては詳しい報告がある[6]。現代中国語の敬語にまだ使われているかについてもっとはっきりとした説明がほしいので、それに少し例を付け加えて、筆者の内省によって判断させていただくことにする。◎は口頭と文章に使われていることを、○は口頭と文章に時に使われることを、△は文章にまたは口語にたまに見られることを、×は殆んど使われないことを示す。

(1)尊敬

贵—◎贵国（貴国）、○贵校（貴校）、贵姓（ご名字）、◎贵方（そちら側）

高—◎高见（ご高見）、○高寿（お年—老人にたずねる場合）、○高徒（お弟子）

大—◎大作（貴著）、○大名（ご高名）、○大驾（貴方）

令—×令尊（お父上）、×令堂（お母上）、×令郎（ご令息）、×令爱（ご令嬢）

贤—△贤弟（自分より年下の友人や自分の弟に対する敬称）、△贤妻（他人の妻に対する敬称）、×贤侄（甥に対する敬称）

尊—○尊姓（ご名字）、×尊府（お宅）、×尊驾（お宅）、○尊夫人（おくさま）

宝—×宝地（御地）、×宝眷（ご家族）

雅—×雅教（ご教示）、×雅意（お考え）○雅兴（ご興味）

台—×台甫（ご雅号）、×台鉴（ご覧になる）、×兄台（貴君・貴下）

赏—△赏光（おいでくださる）、×赏收（お収めくださる）

光—○光临（ご来駕くださる）、△光顾（ご愛顧くださる）

惠—○惠赠（ご愛顧になる）、×惠顾（お贈りになる）、×惠临（ご来駕になる）

(2)謙譲

贱—×贱姓（わたしの名字）、×贱恙（わたしの病気）、×贱内（わたしの妻）

敝—×敝姓（わたしの名字）、×敝处（わたしのところ・わたしの家）

鄙—×鄙人（わたくし）、×鄙意（愚見）、×鄙见（愚見）

舍—×舍弟（わたしの弟）、×舍妹（わたしの妹）、×舍侄（わたしのおい）

家—×家父（わたしの父）、×家母（わたしの母）、×家叔（わたしのおじ）

愚—愚见（愚見）、△愚兄（わたくし—自分より年下の友人に対して）、×愚妻（自分の妻）

拙—×拙见（愚見）、○拙作（拙作）、○拙著（拙著）、×拙笔（拙筆）

小—△小弟（私—同輩に対して）、×小人（わたくしめ）、△小女（わたしの娘）

拜—◎拜托（お願いする）、◎拜会（ご面会する）、◎拜访（ご訪問する）、◎拜见（お会いする）、○拜别（お別れする）、△拜读（拝読する）、×拜请（お願いする）

奉—◎奉陪（お供する）、◎奉劝（お勧めする）、◎奉告（お知らせする）、◎奉还（おかえしする）、◎奉送（差しあげる）

尊敬語にはいくつか生きていることばがあるが謙譲語の名詞は殆んど用い

られなくなっている。〝奉〟〝拜〟は尊敬語と謙譲語より皮肉った場合に使われる。使われているものでも場面が限られている。現代中国語の接辞的な敬語表現は日本語と比べものにならないほど少なくなっている。

しかし、中国の伝統的な家父長制の意識に根ざしている親族名称の一部は接辞的な形で存在している。例えば〝叔〟（おじ）〝嫂〟（おねえさん）〝姐〟（おねえさん）などは人の姓あるいは名の後につけて〝洪叔〟（洪おじさん）、〝李嫂〟（李のおねえさん）〝水英姐〟（水英おねえさん）のようによく使われている。しかし、この現象は人称的敬語表現と接辞的敬語表現にまたがっているもので、本稿では人称的敬語表現に入れることにする。

2－4　構文的手段による敬語表現

日本語は膠着語で屈折語の性質を帯びている言葉なので構文的手段であろうと、語彙的な手段であろうと、広く言語のすみずみまで敬語表現が浸透しているのに対し、中国語は孤立語で膠着語と屈折語の性質が極めて少ないので限られた助動詞と助詞を駆使して可能、疑問、仮定、譲歩、前置きなどの手段、いわゆる構文的な手段によって文を和らげて相手になるべく心理的負担をかけないよう敬語表現をつくるのである。戦後、欧米語からの訳書がふえ、言語に対する影響も見逃せない事実である。戦前の中国語には接辞的な手段による敬語表現と語彙的な専用敬語いわゆる〝客套话〟（あいさつの時のきまり文句）が多かったが、現代中国語には人の呼称と構文的な手段による敬語表現が広がっているのではないかと思う。これについては、特に指摘しておきたいのは「文革」前には中国語の構文的手段による敬語表現はそれほど発達しなかったが、文革後とくに経済改革と対外開放以来，急速に発達してきたように感じられる。原因となるのは「文革」前の人間関係は平等で親しみのこもったものが多く、お互いにそれほど気を使わなくていい状態にあったが、文革後になると、人間関係は権力

（人事権、財務権、物資権など）の力関係や、〝同志〟意識の衰退による国家信頼から家族信頼への転換でお互いの親しみが減り、顧慮が必要な状態になったためであろう。

このように発展してきた構文的手段による敬意表現は中国語にどういう形で存在しているのかを実例をもって見てみよう。「ペンを借りる」依頼表現と設定すれば、次の表現がある。

①借一下笔。（ペンを貸して）

②请用一下你的笔。（ペンを貸して下さい）

③请让我用一下笔。（私にペンを使わせてください）

④请您让我用一下笔。（ペンを使わせてくださらない）

⑤能请您让我用一下笔吗？（ペンを使わせてくださいませんか。）

⑥能不能请您让我用一下笔呢？（ペンを使わせていただけませんか）

⑦是不是能请您让我用一下笔呢？（ペンを使わせていただけませんでしょうか。）

⑧不知道是不是能请您让我用一下笔。（ペンを使わせていただけますか分りませんが）

⑨我想是不是能请您让我用一下笔呢。（ペンを使わせていただけませんでしょうかと私は思いますが）

というような丁寧度の差を示している構文である。一番丁寧度の低い①を分解すれば〝動（借）＋連（一下）＋名（笔）〟からなる三語文である。一番丁寧度が高い⑨を分解すれば、〝代（我）＋動（想）＋助動（是）＋連（不是）＋助動（能）＋応（请）＋代（您）＋動（让）＋代（我）＋動（用）＋連（一下）＋名（笔）＋助（呢）〟という十三語からなる複雑な構文となる。

構文的手段による敬意表現は日本語にどういう形で存在しているのかを調べてみよう。同じ場面を設定しておこう。

①ペンを貸して。

②ペンを貸してください。

③ペンを貸してくださらない？

④ペンを貸してくださいませんか。

⑤ペンを貸してくださいませんでしょうか。

⑥ペンを貸していただけませんでしょうか。

⑦ペンを貸していただけますでしょうか。

⑧ペンをお貸しいただけませんでしょうか。

⑨ペンをお貸しいただけますでしょうか。

というような構文がある。まず一番丁寧度の低い①を分解すれば、「名詞(ペン）＋助詞（を）＋動詞（貸す）＋助詞（て)」という構造である。一番丁寧な⑨を分解すれば、「名詞（ペン）＋助詞（を）＋接頭辞（お）＋動詞（貸す）＋補助動詞（いただく）＋助動詞（ます）＋助動詞（です）＋助動詞（う）＋助詞（か)」という構造となる。構造から分かるように、日本語の文はその丁寧度を高める方法が動詞の変化と補助動詞、助動詞の付加にたよっている。授受関係も動詞に補助動詞と助動詞をつけることによって表示されている。わりあいに機能的構造だと分る。中国語は日本語とちがって動詞の語形変化や動詞への助動詞の付着によって授受関係と敬意を表現することでなく、動詞（使、让、请）と代名詞によって授受関係を表わしていて、助動詞とその慣用型〝是不是〟、〝能不能〟と相手に押しつけるのを避けるための〝我想…〟、〝我觉得好像…〟および要求緩和の前置と後置例えば〝可能的话…〟、〝好不好〟、〝好吗〟などによって丁寧度を高める役割を果たしているのである。例えば、住宅難の中国で平の社員が、住宅分配委員会の委員である、いばっている課長に〝如果可能的话，我想是不是能请王科长給我在会上简单地提一下，好吗？〟（もしできましたら、王課長さんに会議で一言でもお話しいただけますでしょうかと思いますが）と言う例が現実にある。

こういう構造上の違いこそ、日本語教育と中国語教育に多大な困難をもたらしてきたのであろう。

3．中日両国語の敬語表現の異同

現代中国語の敬語表現の主線にそって両国語の敬語表現を眺めてきた。一体、共通している所はどこであろうか。相違点は何処にあるのであろうか。主観的なものであるかもしれないが、一応結論をここで簡単にまとめておきたい。

共通点

1．両国語の敬語表現が存在する基本的な条件に共通性がある。人間社会には人間の行動をコントロールする本能的欲望と行動規範がある。つまりどんな社会の人間でも尊敬されたい、尊敬しなければならない、愛したい、愛されたいというような基本的なものが存在しているのである。敬語行動ひいて敬語表現もその上に築かれているものであると思う。中国語には敬語がないとか、ほとんどないとかいわれてきたが、人間社会である以上、敬意表現がないことは考えられないのである。中国語にはその言語の構造によって体系的敬語表現が少ないように見えるが、実は社会、文化とくにその中の人間関係のあり方に応じたさまざまな敬語要素は違った構造に組織されているかも知れない。量の差はあるかも知れないが、質の差はないのではないかと考えられる。

2．両国語の敬語表現の発展傾向には一致しているところがある。経済発展と商業競争によって構文的手段による敬語表現が複雑化して急速に日常生活に普及されている現象が両国語にも見られる。

相違点

1．中国語の親族名称は日本語より多く用いられる。年長者への尊敬からきているもので呼ばれる側にも抵抗がないことは日本人が若く見られた

いという心理条件と対照的となる。それがもとで、中国語は親族名称の非親族転用現象は強い生命力を示していると同時に、日本語では減少する傾向が見られるようになったのであろう。

2．中国語は一つの敬語表現の使用頻度が高いし、表現効果も高い。中国語の〝您〟と〝请〟がいろいろな場合に使われ、いろいろな機能をみせている。また、中国でデパートの店員の〝您来了〟（いらっしゃいませ）という一言で客がどうしても何か買いたくなるというような効果がある。もちろん、これには社会的心理的原因があるが、適当に無駄なく言葉づかいに工夫をこらすことによる効果があるのであろう。日本語には一つの敬語表現に対して敬語の数が多いから使われる頻度が相対的に低く、また表現の無駄がある。たとえば、デパートの店員は読経のように「いらっしゃいませ、本日はご来店いただきましてまことにありがとうございました。」と無神経にくりかえして言っているが、客のほうでそれをちゃんと聞く人はまれであろう。

3．接辞的な敬語表現は中国語には少ないが日本語には多く見られる。例えば、2・3にあげられた中国語に生きているものは〝贵〟、〝拜〟、〝奉〟などいくつもなく、しかもそれらは殆んど書簡や公用文に用いられ、日常生活には殆んど行なわれないのである。それに対して日本には「お」「ご」「方」「さま」「さん」「くん」などが日常生活によく使われる。「贵」「高」「大」「令」「拝」「拙」「氏」「殿」などは書簡、文書によく使われている。

4．中国語の接辞的な敬語表現は少ないだけでなく汎用性が低い。たとえば〝贵〟という接頭語は〝姓〟、〝国〟、〝校〟、〝公司〟、〝庚〟などいくつかだけにかぶせて敬語をつくれるが、日本語の「お」「ご」などは非常に広く使われる点が異なる。

5．人称以外の語彙的敬語表現は中国語には少ないが日本語には多く見られる。

6．日本語では尊敬語、謙譲語、丁寧語の三つとも発達しているが、中国語にいま、尊敬語はあるが謙譲語は少ない。

4．おわりに

中日両国語における敬語表現の違いによって、日本語教育と中国語教育にもひびいていると思われる。ここでは次の三つの点を指摘しておきたい。

1．日本語の構造は中国語のそれとちがって、構文的な敬語表現に授受関係を示している動詞、補助動詞、助動詞が多くあるが、中国語では授受関係は動詞または前置詞＋代名詞または名詞の組合わせによって表わすのが普通であり、動詞自身は授受関係を表す機能が弱い。それが原因で、中国人の日本語学習者は「くださる」を「あげる」と、「～ていただく」を「～せていただく」と混同し、授受関係を誤用する例が多いようである。

2．中国語に接辞的な敬語表現が少ないから，中国人の日本語学習者が「あなたは李小平ですか」「こちらはあなたの弟ですか」というような「さん」を欠いた誤用文をつくることがよくある、という[7]。それに反して、日本人の中国語学習者には〝wang ying（王英）〟のあとに「さん」をつけないとおちつかない人がいる。

3．中国語に動詞としての敬語が少ないから中国人の日本語学習者にとっては場面と相手によって適当に尊敬語と謙譲語を選ぶことが難しい。例えば、えらい先生に「先生はまだ私を覚えているでしょう」とか「先生も来るでしょう」とかいう人がいる[8]。日本語の「いる」「くる」に対応する「いらっしゃる」「おられる」「見える」「おいでになる」などいろいろあるが、中国語の〝在〟〝来〟に対応する敬語がないからその動詞に対して選ぶ意識も弱いのであろう。

広く調べればまだいろいろ観察されよう。今日、中国でも敬語表現を語

学教育と関連して考えるときがきた。国際化時代に応じて相手国の文化を映す敬語を使いこなせる人材を育成しなければならないのではないかと思う。

最後に本稿作成にあたって本学研究所のかたがたのご協力とご助言をいただいた。とくに元本学教育学部教授・国立国語研究所名誉研究員大石初太郎先生と本学研究所研究員田中寛先生には全文に目を通していただき、貴重な助言を承った。ここで謹んでお礼を申し上げる。

注

1)南不二男（1977年）「敬語の機能と敬語行動」（岩波講座）Ｐ３～４による。「狭義」「広義」の分け方は筆者による。

2)〝师傅〟は北京あたりで多く見られる。〝师傅〟と〝老师〟は子供に対して使われない。

3)木村英樹（1987年）の論文による。

4)興水　優（1977年）の論文による。〝他老人家〟の〝他〟も第３人称の敬語性問題と関連する。

5)呂　叔湘（1984年）によると北京あたりで〝您们〟という言い方が存在していたというから、一部の年輩の人にまだ使われているわけである。

6)興水　優（1977年）の論文による。

7)佐治圭三（1983年）の論文Ｐ41による。

8)――――（1983年）の論文Ｐ43による。

参考文献

(1)興水　優「中国語における敬語」　岩波講座『日本語』4　敬語　岩波書店　1977年

(2)辻村敏樹「日本語の敬語の構造と特色」　岩波講座『日本語』4　敬語　岩波書店　1977年

(3)楊　慧珠・柴田　武「中国語社会における敬語表現」『言語』　大修館　1984年６月号

(4)佐治圭三「中国人学習者の間違えやすい敬語表現」『日本語学』　明治書院　1983年１月号

(5)奥津敬一郎・沼田善子「日、朝、中、英のあいさつ言葉」『日本語学』　明治書院　1985年８月号

(6)劉建華「勧誘・応答における中日言語行動の比較―『直接表現型』と『調和表現型』をめぐって―」『待兼山論叢・日本学篇　第18号』　大阪大学文学部　1985年1月号

(7)南不二男「敬語の機能と敬語行動」岩波講座『日本語』４・敬語　岩波書店　1977年

(8)黄　南松「非教师称〝老师〟的社会調査」『語言教学与研究』　北京語言学院　1988年第４期

(9)木村英樹「中国語の敬語」『言語』　大修館　1987年７月号

(10) ―――「依頼表現の日中対照」『日本語学』　明治書院　1987年10月号

(11)大石初太郎『敬語』 筑摩書房　1975年

(12)太田辰夫「中国における敬語の問題」『言語生活』　1972年　No.249

(13)蘇　徳昌「中国語―日中の称呼」『講座日本語学12　外国語との対照Ⅲ』　明治書院　1982年３月

(14)林　淑珠「日本語と中国語の命令・依頼表現の比較―丁寧度の観点から」『国語学研究22』　東北大学文学部『国語学研究』刊行会　1982年12月

(15)劉　宏娟「日本語の呼びかけと対照する中国語―文学作品における呼びかけ表現の分析」『日本語教育論編纂　第三集』　国際交流基金　1985年６月

(16)井出祥子他『日本人とアメリカ人の敬語行動』　南雲堂　1986年12月

(17)呂　叔湘『语文杂记』　上海教育出版社　1984年